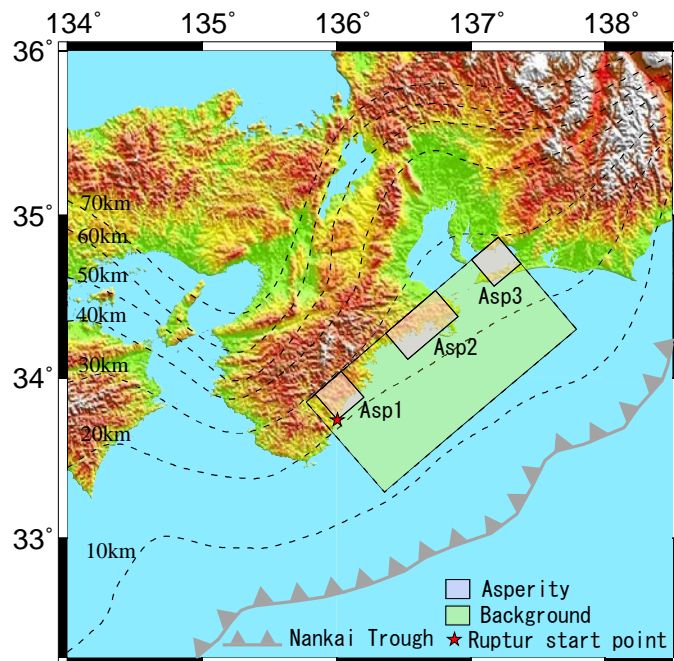


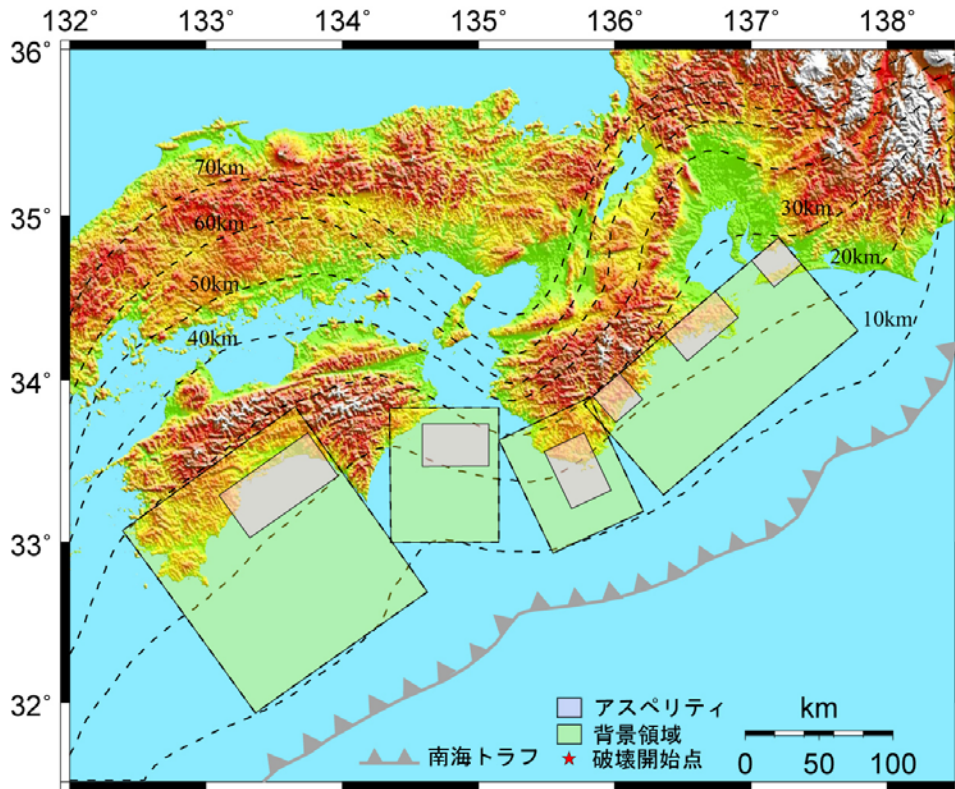
図中の破線はフィリピン海プレート上面の深さを表す (Kawabe and Kamae (2008)<sup>(21)</sup> より)

第 4.2.5-3 図(1) プレート間地震の震源モデル (南海地震, M8.4)



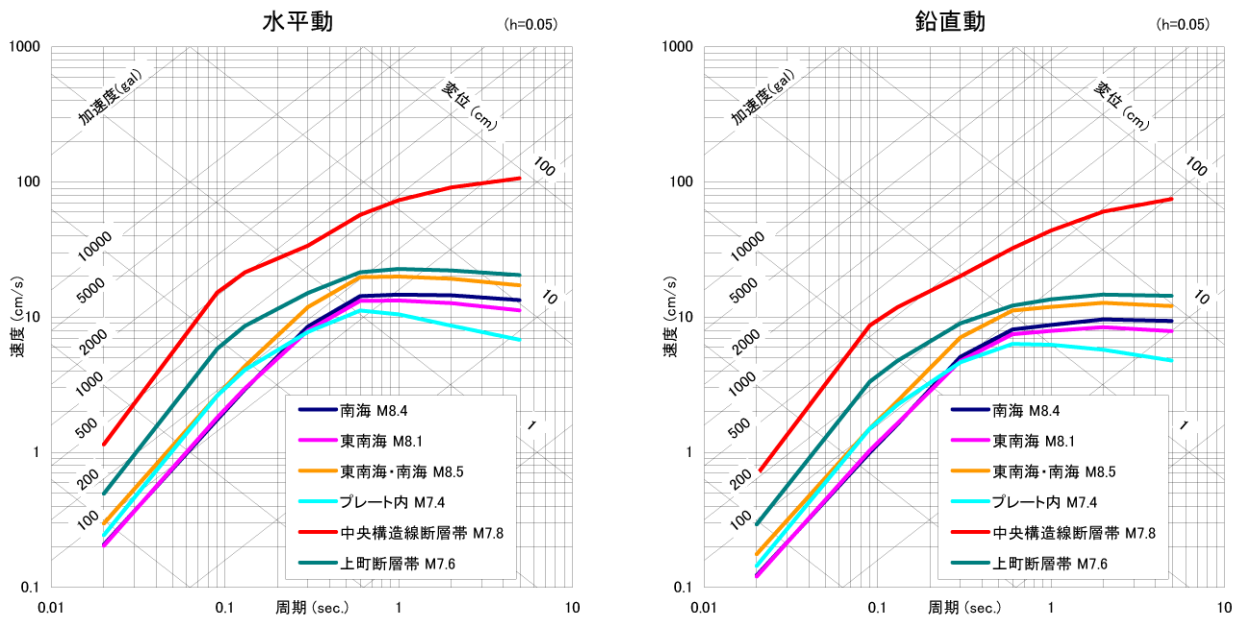
図中の破線はフィリピン海プレート上面の深さを表す (Kawabe and Kamae (2008)<sup>(21)</sup> より)

第 4.2.5-3 図(2) プレート間地震の震源モデル (東南海地震, M8.1)

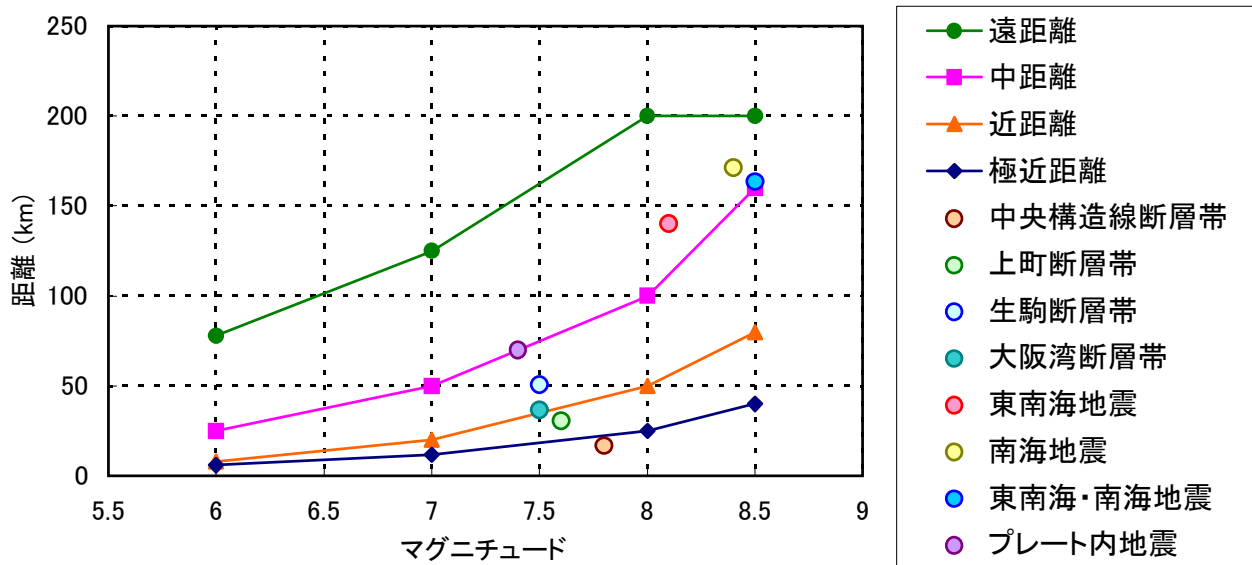


図中の破線はフィリピン海プレート上面の深さを表す

第 4.2.5-3 図(3) プレート間地震の震源モデル (東南海・南海地震, M8.5)



第 4.2.5-4 図 解放基盤表面における地震動の応答スペクトル (応答スペクトルに基づく地震動評価)

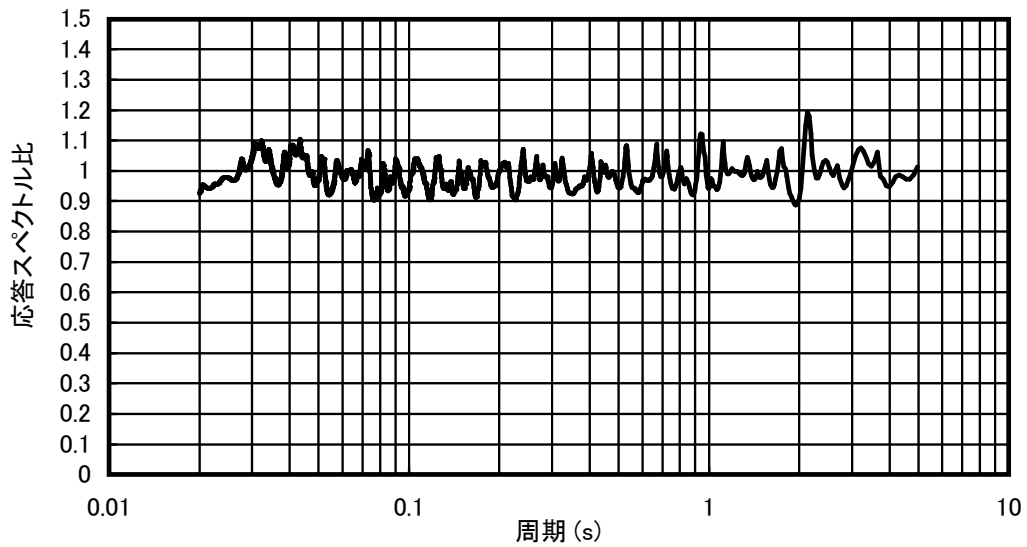
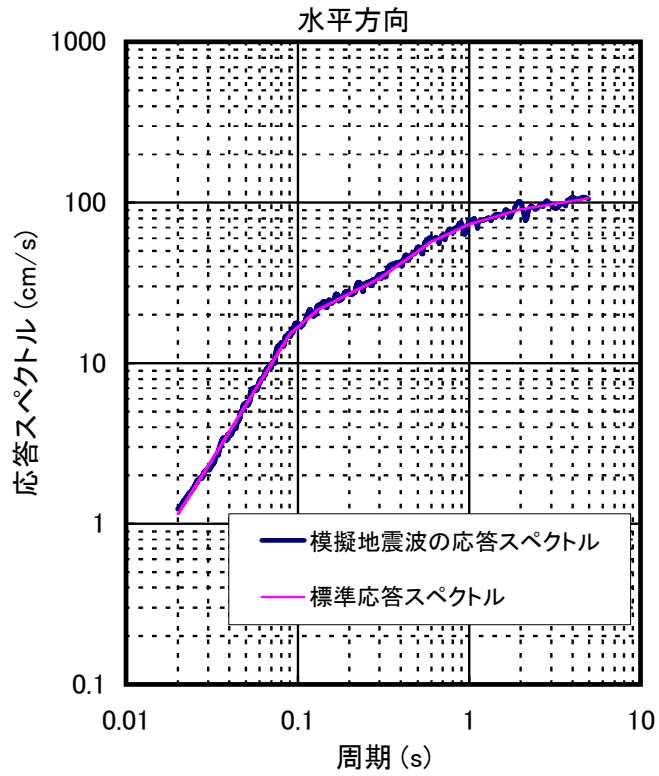


コントロールポイントと評価断層のマグニチュードと距離の関係

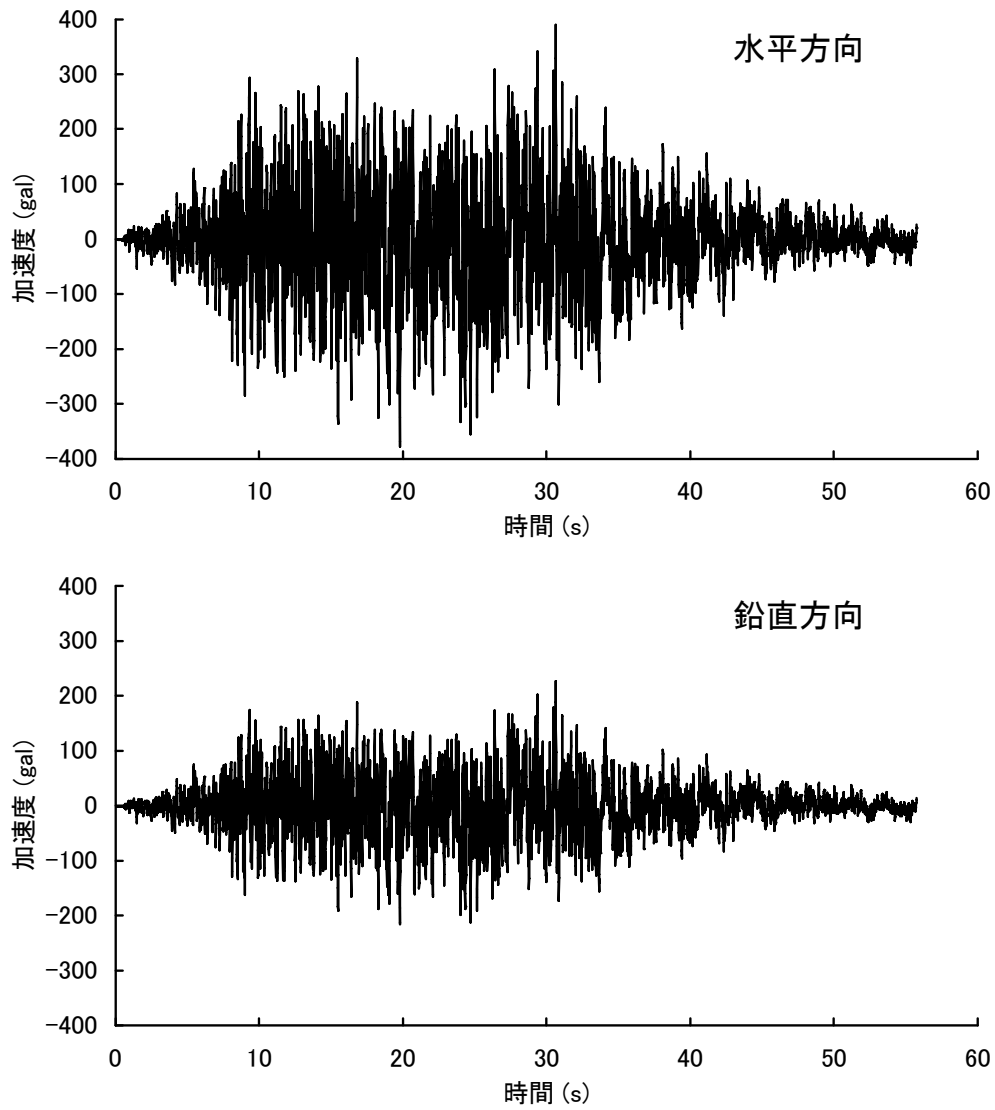
地震動のコントロールポイントのマグニチュードと距離

マグニチュード	極近距離 (km)	近距離 (km)	中距離 (km)	遠距離 (km)
6	6	8	25	78
7	12	20	50	125
8	25	50	100	200
8.5	40	80	160	200

第 4.2.5-5 図 Noda et al.(2002)<sup>(23)</sup>に基づく応答スペクトルの設定の際に用いたマグニチュードと震源距離の関係，及びここで評価した断層のマグニチュードと震源距離の関係

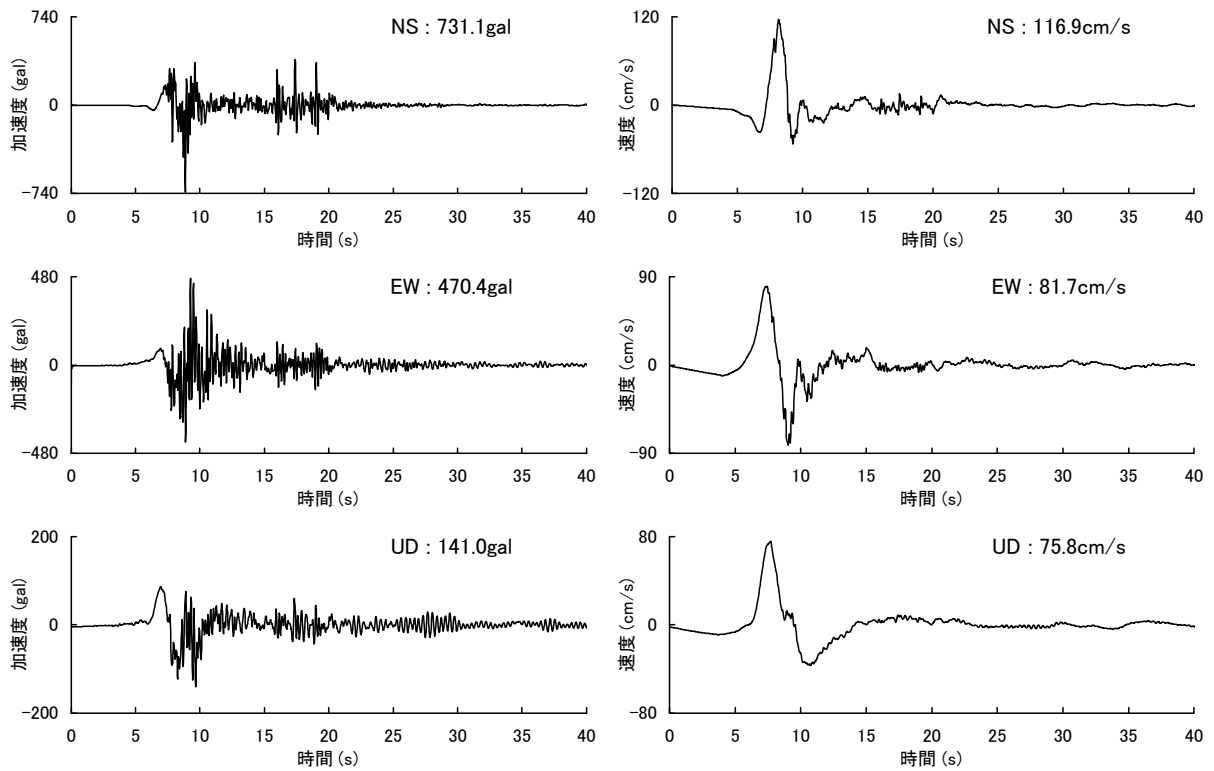


第 4.2.5-6 図 標応答スペクトルと模擬地震波の応答スペクトルの比較 (減衰定数 5%)

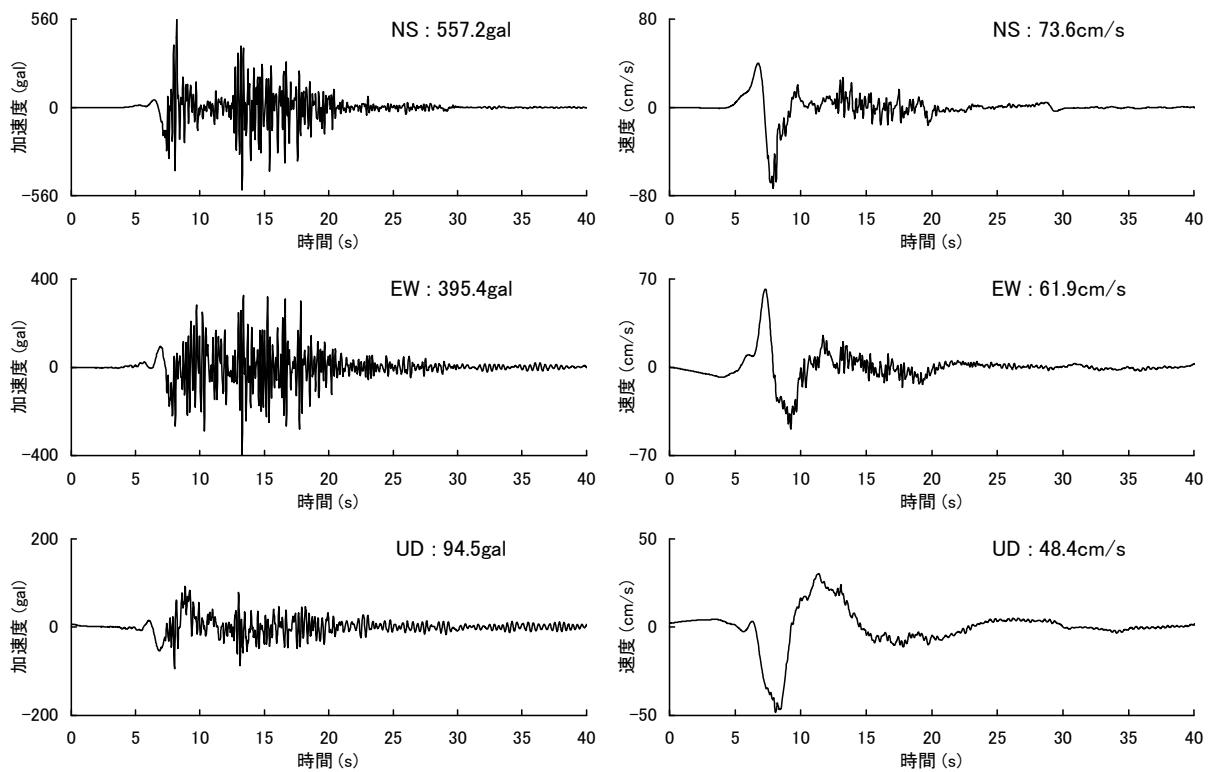


第 4.2.5-6 図 模擬地震波の加速度時刻歴波形

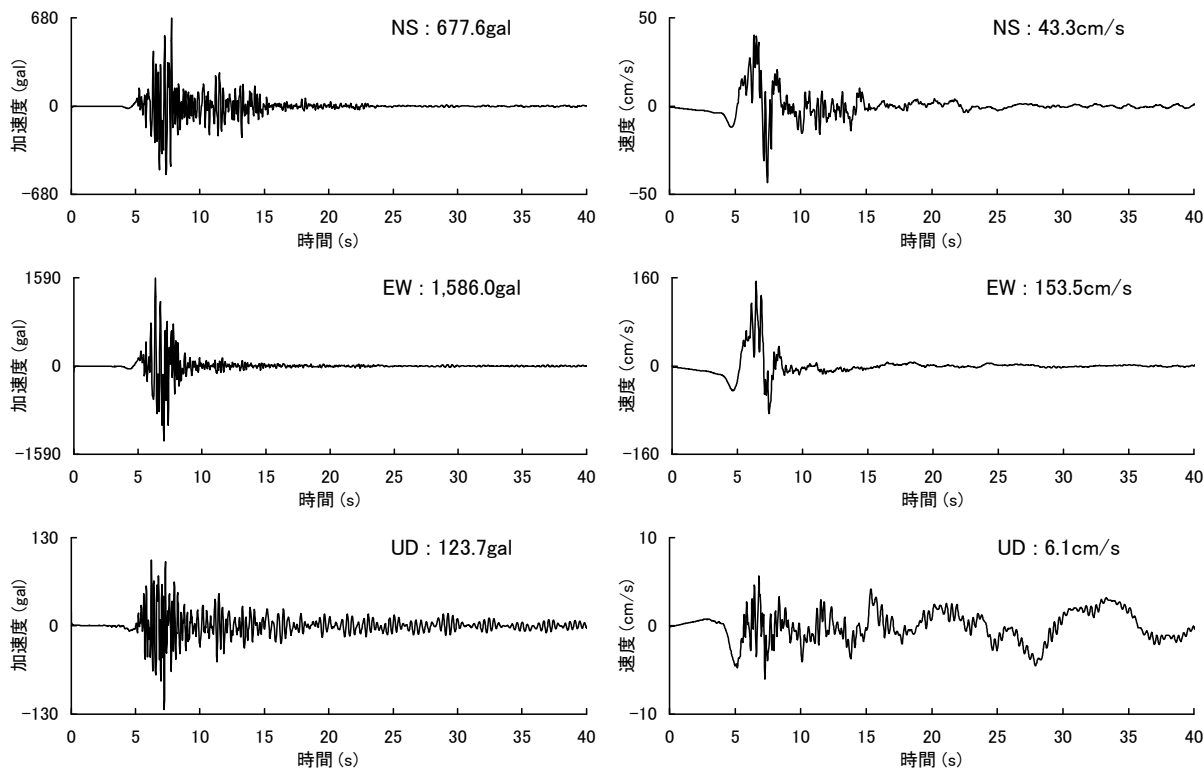
第 4.2.5-7 図 Noda et al.(2002)<sup>(23)</sup>に基づく応答スペクトルの設定の際に用いたマグニチュードと震源距離の関係, 及びここで評価した断層のマグニチュードと震源距離の関係



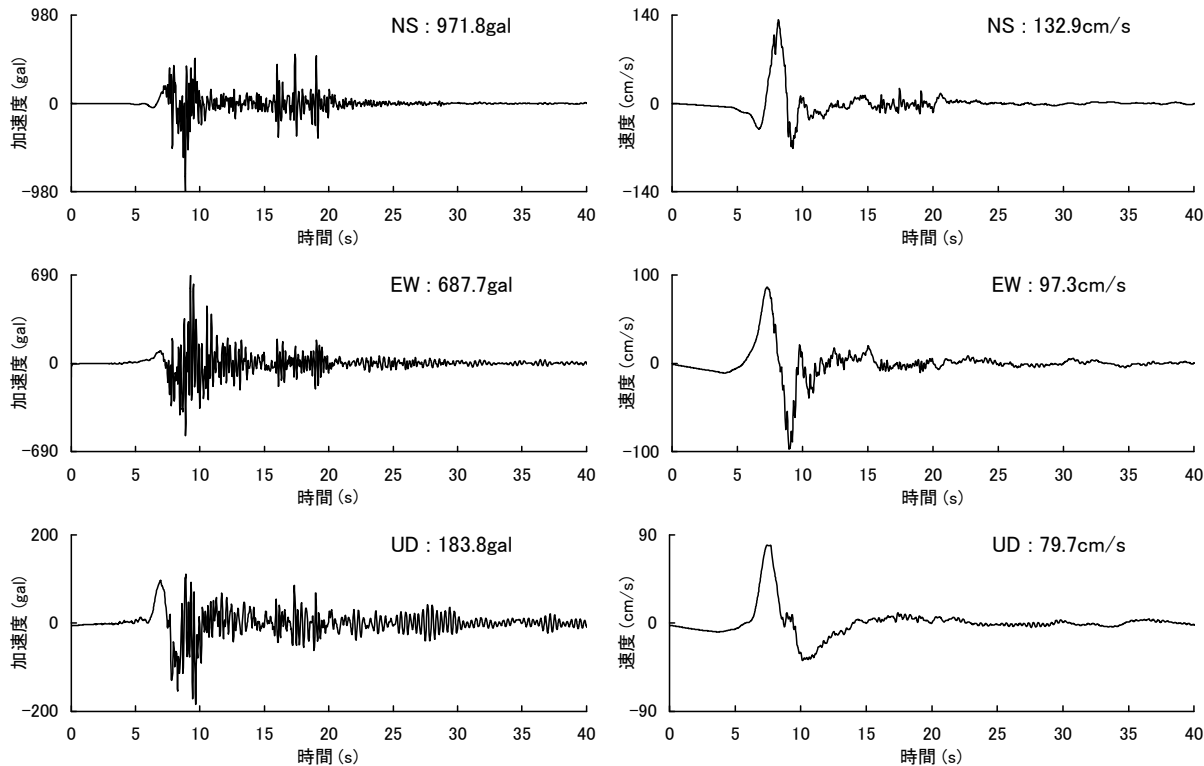
第 4.2.5-8 図(1) 解放基盤表面における時刻歴波形 (中央構造線断層帯, ケース 1)



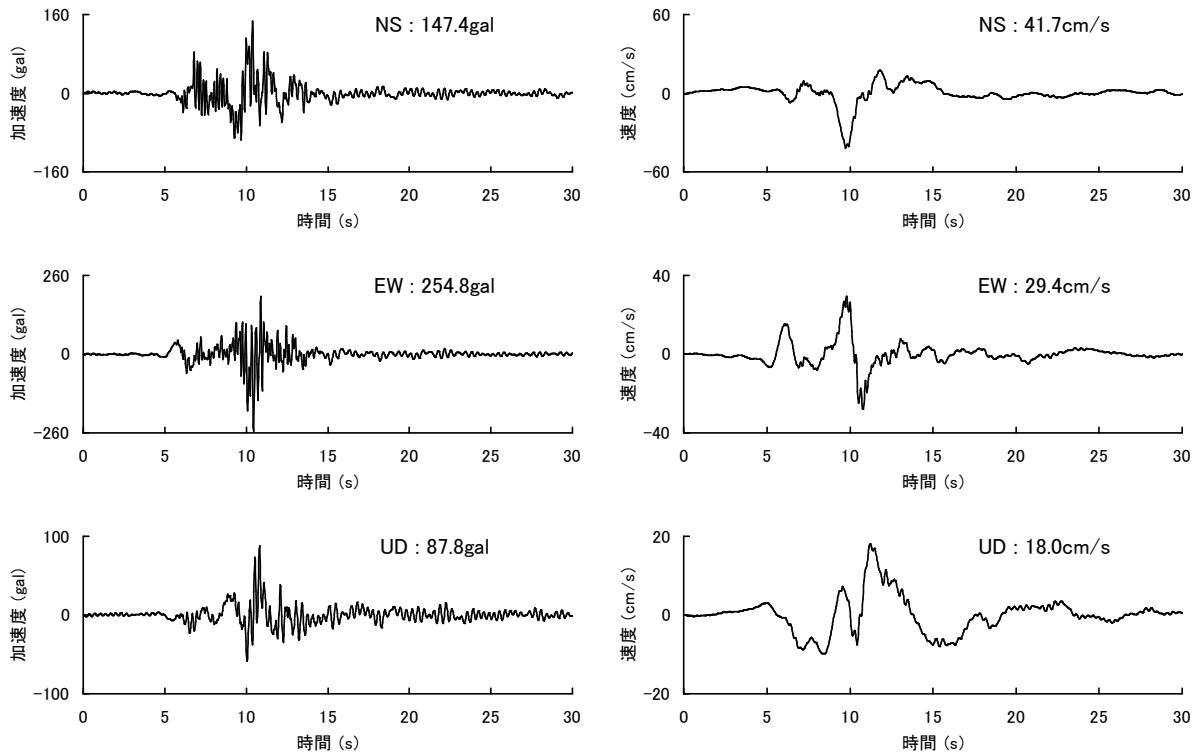
第 4.2.5-8 図(2) 解放基盤表面における時刻歴波形 (中央構造線断層帯, ケース 2)



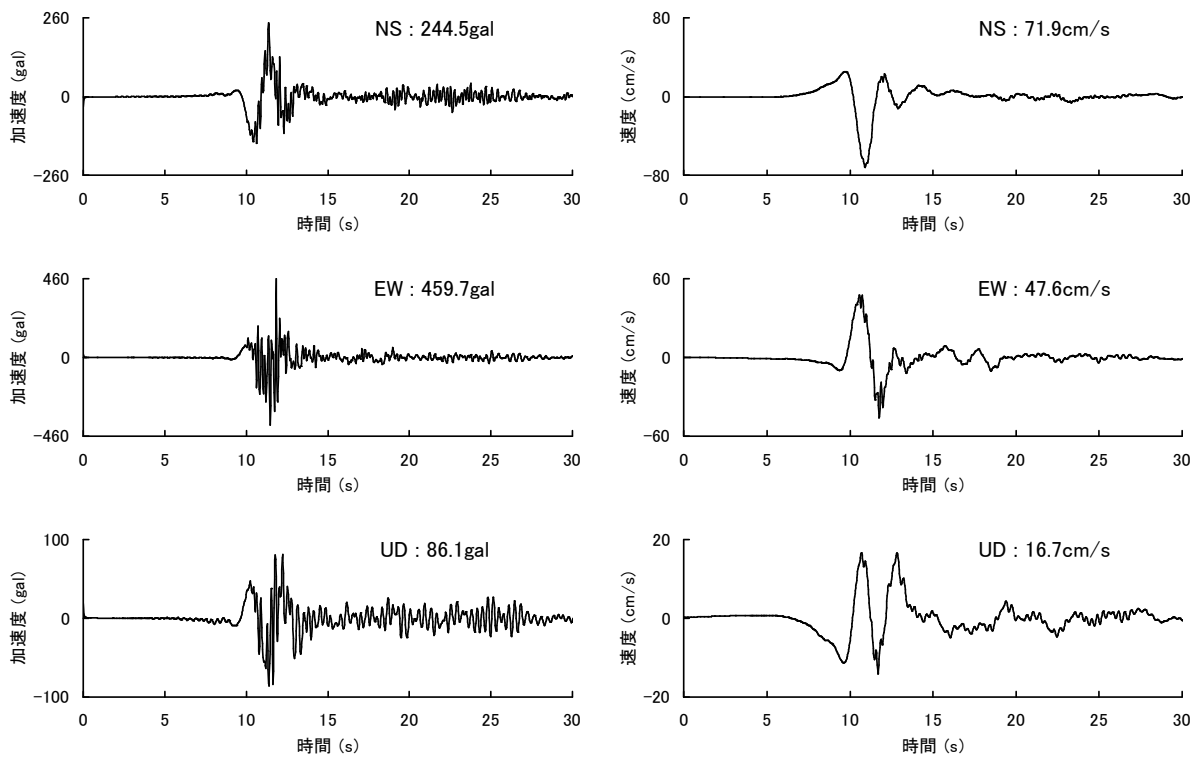
第 4.2.5-8 図(3) 解放基盤表面における時刻歴波形 (中央構造線断層帯, ケース 3)



第 4.2.5-8 図(4) 解放基盤表面における時刻歴波形 (中央構造線断層帯, ケース 4)

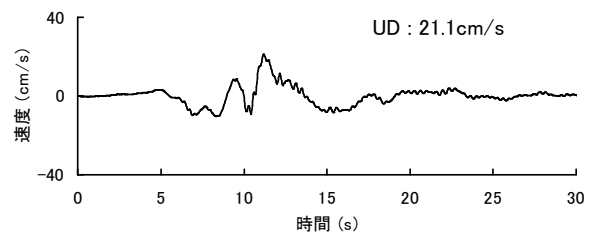
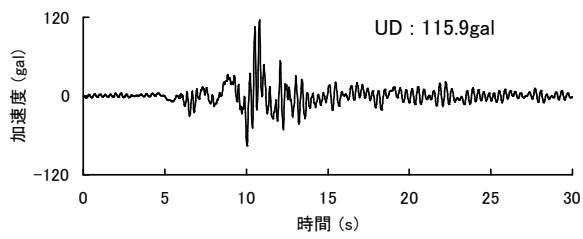
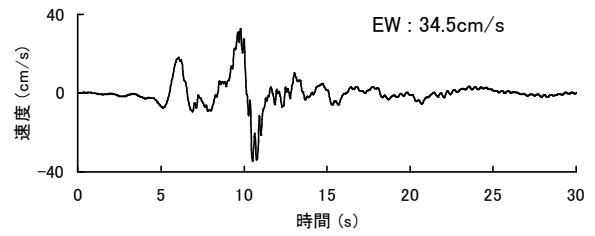
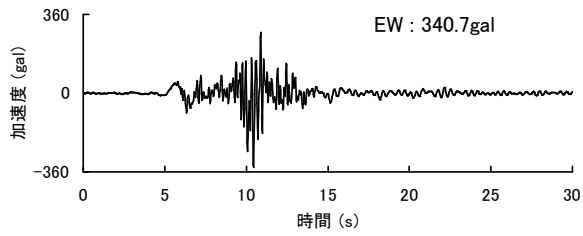
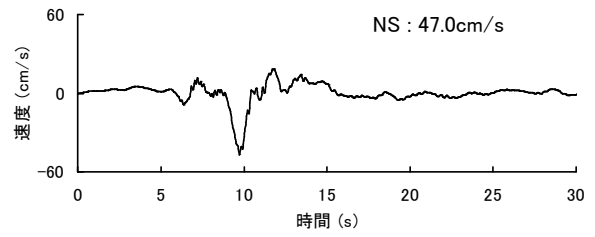
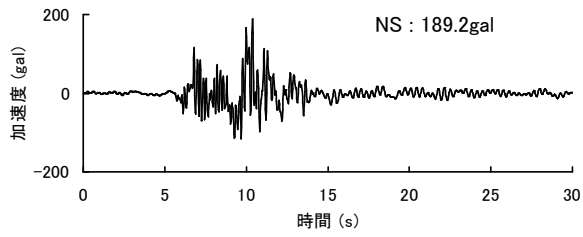


第 4.2.5-8 図(5) 解放基盤表面における時刻歴波形 (上町断層帯, ケース 1)



第 4.2.5-8 図(6) 解放基盤表面における時刻歴波形 (上町断層帯, ケース 2)





第 4.2.5-8 図(7) 解放基盤表面における時刻歴波形 (上町断層帯, ケース 3)